

## － 開催にあたって －

最上川の川絵図は江戸時代に描かれた川絵図が新たに1点確認され、12点にのぼります。その数は国内の他の河川と比較して多く存在します。その画面には往来する舟の様子や難所、河岸、沿岸の寺社をはじめとする流域の景観が詳細に描き込まれ、当時の最上川と関わった人々の心情が浮かび上がります。

本展は、「最上川流域の文化的景観」の世界遺産登録を目指すための県民意識を醸成するアプローチの一つとして、現存する川絵図を読み解くことで、当時の主要な交通手段であった舟運をより身近なものとして感じてもらうとするものです。

本展開催にあたり、ご協力、ご指導いただいた方々に対し厚くお礼を申し上げます。

平成20年7月

山形県立博物館長 阿部 寛



最上川と白糸の滝(写真提供 山形県)

## おもな展示品

- ◇羽州川通絵図 自米沢正部最上左沢(本館所蔵)
- ◇松川舟運図屏風(財団法人宮坂考古館所蔵)
- ◇最上川谷地押切渡より柏沢迄絵図(財団法人致道博物館所蔵)
- ◇最上川絵図(尾花沢市 庄司吉弥氏所蔵)
- ◇最上川絵図(山辺町ふるさと資料館所蔵)
- ◇須川・最上川絵図(本館所蔵)
- ◇自左沢至酒田 最上川絵図(河北町教育委員会所蔵)
- ◇最上川川通絵図(大郷郷土研究会所蔵)
- ◇最上川通舟案内書(大石田町立歴史民俗資料館所蔵)
- ◇最上川舟運絵図(千葉県成田市 飯嶋治通氏所蔵)
- ◇最上川通船御定目并運賃仕法書留(本館所蔵)
- ◇最上川絵図(最上徳内記念館所蔵)
- ◇最上川絵図(天童市 笠原登氏所蔵)
- ◇最上川絵図(山形市 柴田謙吾氏所蔵)

を含む約100点

## 関連行事

### 1 記念講演会

- (1) 平成20年7月26日(土) ※午後1時30分から  
テーマ「古地図にみる文化景観－最上川の世界－」  
講師 小野寺 淳(茨城大学教授)
- (2) 平成20年8月2日(土) ※午後1時30分から  
テーマ「最上川と今に生きる青学」  
講師 菊地 和博(東北芸術工科大学准教授)

### 2 ギャラリートーク

7月19日(土)、8月17日(日) ※午後1時30分から  
本館学芸員が担当します。

## 山形県立博物館

〒990-0826 山形県山形市霞城町1-8(霞城公園内)  
TEL 023-645-1111 FAX 023-645-1112  
URL <http://www6.ocn.ne.jp/~ykmuseum/>

## 世界遺産育成企画展

# 最上川と人びとの暮らし

－ 川絵図を読み解く －

平成20年7月19日(土)～8月24日(日)



山形県立博物館



# 最上川と人々の暮らし

山形県の母なる川・最上川は、江戸時代から明治時代にかけて舟運で栄えました。清水・大石田・左沢・寺津・船町・宮などの河岸(船の荷物を積みおろしする岸)や藩の船屋敷や米蔵が置かれています。川絵図にも、様々な表現で描かれています。

山形からの登せ荷は、米、大豆、小豆、紅花、青苧などであり、帰り荷は塩、木綿、古手(古着)、鉄、茶、木材、干物などのほか、上方から仏像やひな人形なども下ってきました。

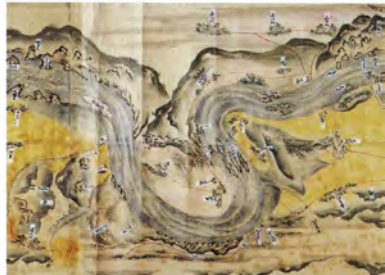


羽州川通絵図 自米沢正部最上左沢(本館所蔵)

古泉斎筆。六曲一双で、糠野目から荒砥、葛蒲から左沢までを描いています。最上川上流の様子や沿岸の村々、米沢藩の舟屋敷などが記されています。屏装していることから、川筋は3段凝縮されるも、高い装飾性を誇っています。描かれた季節は、春、桜の咲く頃と思われ、川沿いの各名所も見えます。



松川舟運図屏風(財団法人宮坂考古館所蔵)



最上川谷地押切渡より柏沢迄絵図(財団法人致道博物館所蔵)

巻末に「直朝書之」の落款と印章があります。谷地から清川まで描かれ、川の流れや、沿岸の村々の様子が詳しく表記されています。致道博物館所蔵品と酷似しており、それを写したものと思われま。



最上川絵図(尾花沢市 庄司吉弥氏所蔵)

米沢から左沢まで描かれており、大規模な開削を行った黒滝付近には、舟屋敷や舟御政所などの施設が見えます。作成年代は不明ですが、寛政7(1795)年に完成した黒井堰の大橋が描かれておらず、それ以前とみることもできます。米沢藩の舟運利用の様子がうかがえる資料です。



須川・最上川絵図(本館所蔵)

左沢・船町から河口の町酒田まで描かれている折り畳み式の絵図です。黄色を基調とした彩色で、岩や早瀬、渦巻きなどが誇張して描かれています。

元々所蔵していた榎家は、代々久右衛門を名のり、幕領の名主も勤めた家柄です。作成年代については不明となっています。



最上川川通絵図(大郷郷土研究会所蔵)

長崎・寺津から河口の町酒田まで描かれています。川の流れや沿岸の山々を墨で描き、ほとんどの村を村名のみ記しています。

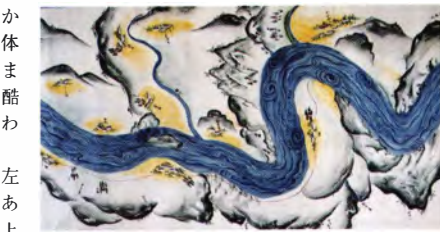
奥書に、天保7(1836)年、義弁法印が模写したと記されています。作成年代のわかる貴重な川絵図と言えます。



最上川通舟案内書(大石田町立歴史民俗資料館所蔵)



左沢・須川の高湯・上ノ山から、河口の町酒田まで描かれています。川の中州や岩、町や村の家並みなど詳細に描かれています。大石田・清川など5箇所に方位記号が記入されています。作成年代は不明ですが、河口近くの村・遊摺部(ゆするべ)村が左岸にあり、右岸に移った嘉永5(1852)年以前に作成された可能性があります。



最上川絵図(山辺町ふるさと資料館所蔵)



自左沢至酒田 最上川絵図(河北町教育委員会所蔵)

長崎・船町から河口の町酒田まで描かれています。中州や岩、淵などは詳細に描かれているものの沿岸については村名のみを記しています。大石田が「御代官所 山形領東根領」となっていることから18世紀前後の時期を推定できますが、現在は写しのみが残っています。

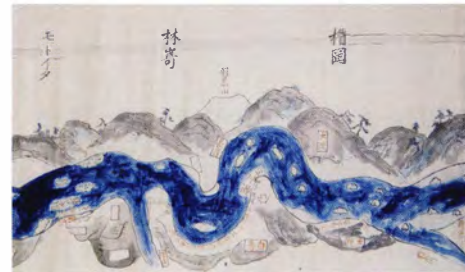


最上川舟運絵図(千葉県成田市 飯嶋治通氏所蔵)

船の大きさや運賃が書かれたものと同じ綴りで川絵図が収められています。船町・左沢から河口の町酒田まで描かれています。沿岸の「舟場」の位置が記されています。



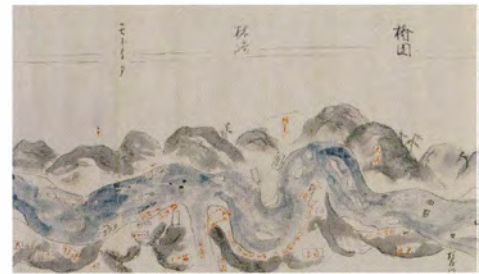
最上川通船御定目并運賃仕法書留(本館所蔵)



最上川絵図(天童市 笠原登氏所蔵)

長崎・船町から河口の町酒田まで描かれています。笠原氏所蔵品と酷似しており、同じ原本を写した可能性があります。

山々は墨を、川は墨と藍を混ぜて彩色しています。また、河口には海船と川船が描かれています。



最上川絵図(最上徳内記念館所蔵)



最上川絵図(山形市 柴田謙吾氏所蔵)

現在確認されている絵図で唯一県外にあるものです。

長崎・寺津から河口の町酒田まで描かれています。川は青を基調とし、山々を墨で川の両側に展開して描かれています。

長崎・船町から河口の町酒田まで描かれています。紙面上に羽州街道も併記していますが、「山形県銅町より」と記されていることから明治以降の可能性もあります。地名など四角く空欄になっている箇所もあり、写しと思われる。

山形市の柴田謙吾氏が作成・所蔵しているものです。全長が40mほどで、河岸や渡し場など、最上川に関わる様々なことが記されています。資料調査から清書まで20年以上の年月をかけたもので、作成するにあたっての情熱や労苦が感じられます。